

1

(1・2・3・7 各完答)

1 それだ。

2 I エ II ア III イ

3 A ウ B エ C エ

4 無 5 歌詞が

6 (記述題) 7 I 判断材料 II 論議

8 ⑥ ウ ⑦ エ ⑧ ウ

10 a 地元 b 仕組 み c 集落

d 市民 e 停止

2

(2・3・5・11 各完答)

1 a 手軽 b 仲良 く

2 I 知り合った II 好き

3 I ウ II イ III ア IV エ 4 マン

5 A イ B エ C ア 6 イ 7 ア 8 イ

9 恋人 10 う

11 関田 12 藤色の花

1

6 値段が手頃な専門店や人が増えたから。 ネット通販を利用する。

(同意可)

配点	
11021	各2点×7=14点
16	6点
その他	各4点×20=80点
100点	

1

- 1 問いの直後で答えを述べ、そこから具体的な説明に進めていくという文章の構成になっていることに、通読時に気づいておきたい。
- 2 Iは大ヒット中の映画を見たときの感想であることから考える。IIは前後の「気に入っていた映画や音楽をく刺すような内容に腹が立ち」という表現から考える。IIIはこの段落で情報を得て考える人と無知な人が対比されていることから考える。
- 3 問題文の、同じ記号を使っても構わないという指定を見落とさないように気をつけたい。(A)は直後の文が「くからだ。」の形で理由説明の文になっているので「なぜなら」がはいる。(B)と(C)は段落のはじめにあり、どちらも(B)の直前の段落で述べている内容の具体例が挙げられているので「たとえば」がはいる。
- 4 「何も無いところに突然何かが生まれるということはない」という慣用的な表現である。知らなかったとしても前の文とのつながりから推測してほしい。
- 5 理由を説明する問題なので、——線③を読んで「なぜ驚いたのか」と考え、さらに◎の文の「疑問をもつ」とはどのような疑問なのかと考えるながらこの後を読んでいくと「歌詞が文学といえるのか」という疑問が見つかる。
- 6 「閉店する」という情報を得た人が、そこから考えを進めていくということの具体例である。同じ段落に二つの理由が並べて書かれているので上手くまとめよう。
- 7 直後の段落に「選挙を例に考えてみよう」とあるので、ここで「取り返しのつかない事態になる」場合について具体的に書かれているはずである。自分の一票に責任を負うために必要なことは何か、さらに次の段落でまとめられている。
- 8 本文中での意味を問われていることに気をつけよう。⑥は本来「虫が食う」の意味だが、本文中では「虫に食われるように少しずつ悪くなっていく」という意味になっている。⑦は本来、ギリシヤ神話などのように神々が登場する物語のことだが、「神話に思考停止せられる」というつながりには合わない。正解の「根拠のない思い込み」を本文に当てはめて読めば、これしか当てはまるものはないとわかるだろう。
- 9 多くの情報を知識としなければ、深い思考はできないという主旨の文章であった。Aは「情報を発信していくべき」がおかしい。Iは「受け身になって集めてい」というのがおかしい。「受け身になる」というのは自分から動かずに、待っているということである。Eは「すべての問題は解決が可能」というのが言い過ぎである。こういった極端な表現を含む選択肢には気をつけるようにしよう。
- 10 どれも漢字としては易しいので確実に正解してほしい。aは「元」を「本」や「下」といった同訓の漢字を書かないように気をつけよう。

2

- 1 aは「軽」を「転」と書いてしまう間違いが多い。落ち着いて、字の意味をイメージしながら書こう。bはあまり使わないが「仲好し」と書いても正解になる。よく似た意味の漢字は書き分けが難しかったり、あいまいであったりすることがあるので気をつけよう。
- 2 本文中では直後で凧さんが理由を話しているので易しかっただろう。◎の文の空らん前後のことばもていねいに読んでヒントにしてほしい。Iは「獅子舞を通じて妻と」どうなったのか、と考える。IIは直前に「とても」とあるので、心情や様子を表すことばが入ると考えられるだろう。
- 3 IとIIは同じようなことを言っているようだが、それぞれが灯子と凧さんのどちらのことばなのかを考える順序を入れ替えることはできないとわかる。凧さんが話し始めた、凧さん自身の父親の話に対して灯子が「どうしてか知ってる？」と聞き返すはずがない。また、IにエをいれてしまうとIVにいれることばが無くなってしまい、会話全体がなくなってしまう。IIIは直後のつながりから内緒話を聞かれないようにしようという凧さんの様子がうかがえるので、まずはここにアをいれておくると他の部分が決めやすくなるだろう。必ずしも手前から順に決めていく必要はないのである。
- 4 「甘く、うっとりするような雰囲気」を意味する外来語で、よく使われるものなので知っていれば易しかったはずである。
- 5 「口」という字を含んだ慣用句であり、それぞれが心情や様子を表している。(A)は凧さん自身の両親の、平凡な恋愛エピソードに対する不満を表している。(B)は会話を止めて考え込む様子、(C)は直前の出来事に対する非常に大きな驚きを、それぞれ表している。
- 6 「あたし」つまり灯子の気持ちについては、この後ではつきり書かれている。「いっしょに踊りたい」とは言っているが、——線③の直後の会話からも灯子の目的は関田くんといっしょにいることであって、踊りそのものに情熱を傾けているわけではないとわかる。
- 7 問11からもわかるように関田くんも灯子に好意を持っていることは明らかなので、イとウはちがうとわかる。エのように「仕方なく」去っていくという様子はこの場面から読み取れない。
- 8 関田くんがその場にいるとは思わずに、大声で「いっしょに踊りたい」と言ってしまったのである。「穴があれば入りたい」は、非常に恥ずかしくてその場に居られない」という意味のことばである。問5の(C)もヒントになるだろう。
- 9 「藤と獅子」が表しているのは何か。灯子は自分自身と関田くんをそこに重ね合わせているのだろう。凧さんの両親の話をしている場面に正解があるので、頭の中に答えのイメージが浮かばなければ探すのは難しい。
- 10 ◎の文の「力なく」という表現から、灯子の落ちこんだ気持ちを読み取れる。そのような気持ちになるような話をしているのはどこか。関田くんが来年も踊ってほしいと言ってくれたことを知ってガッツポーズをしていたはずの灯子が、【う】の五行前からの凧さんのことばを聞いたことばかりになっている様子が描かれている。
- 11 もともとはおたふく風邪になったクラちゃんの代わり、という話であったようだが、本文終わりから七行前で凧さんが「実はさ：：」と、本当の事情を灯子に明かしている。
- 12 本文全体から、灯子と関田くんがお互いに好意を持っているということが読み取れていたか。問9と同様に藤の木と獅子がそれぞれ娘と若者を意味していることと合わせて考え、本文最後の段落の情景描写に注目しよう。